



フェアプレーに戦うことは日本の強み

フェアプレーに戦うことは日本の強み

植木選手は、今年の夏に行われたFIFA女子ワールドカップで2得点を決めた日本代表の選手です。日本代表チームは、この大会でファウルをした回数が少なく、フェアプレー姿勢が評価され、フェアプレー賞を受賞しました。このことについて植木選手に尋ねると「サッカーはチームスポーツであり、相手がいけないとできないスポーツです。ですから、相手チームの選手も仲間として、ともにフェアに戦うことは普段からしていることです。それは、子どもの頃から練習してきた環境やチーム、コーチをはじめ支えてくれた多くの人たちのおかげで、自然に身についたのだと思うし、他の日本代表選手も同じように育ってきたと思います。それは日本の強みです」と、



植木選手に、試合で心がけていることについても尋ねました。「サッカーは体のぶつかり合いのある激しいスポーツで、ファウルしてしまうこともあります。私は、ファウルが起きてしまったら、相手選手と握手するなどコミュニケーションをとるようにはしています。そうすることで、その後も全力で気持ちよくプレーできますから」。

女子サッカーをもっと広めていきたい 植木選手

話してくれました。さらには、「フェアに戦おうとしないチームは、強くなれません」と言っていたことが、とても印象的でした。

ファウルの後は コミュニケーションを相手ととる

今年の秋からイギリスのサッカーチームに移籍した植木選手。その先には、来年のオリンピック



©West Ham United



「フェアプレー宣言」しました!!

金メダルという夢があります。さらにこんな夢も話してくれました。「私がサッカーを始めた2011年に、女子ワールドカップで日本が優勝し、女子サッカーの人気が高まりました。その様子を見て、私も女子サッカーをもっと広めていきたいと、子どもながらに思いました。その夢は、一生の目標として今も持っています」。大きな夢があるから、毎日を一生懸命に頑張れるのかもしれないね。

夢の舞台でフェアプレー

高校野球

